



新メンバーへの裁縫トレーニング（パヤタス）

技術訓練に取り組む母親たちの思い

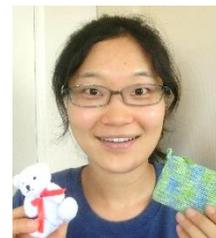
私は、高校の頃から国際開発分野に興味を持ち、大学卒業後は開発途上国で働きたいと思っていました。卒業間際に、アイキャンマニラ事務所のインターンの求人を見つけ、アイキャンが行っている「生活が向上し続ける『システム』作り」にとっても魅力を感じ、応募しました。

採用後は、フィリピン最大のごみ処分場があるパヤタス地区において、ごみ山に頼らない生計手段として、縫いぐるみや小物を製作、販売している住民組織 SPNP（パヤタスで生計向上のために頑張る母親たち）の活動を担当しました。私は、SPNP の商品をより多くの人に手に取ってもらえるよう、商品の質や生産性の向上、マーケティングの強化などを、6名のメンバーとともに日々話し合ってきました。

ある日、新規メンバーを増やすため、住民対象のトレーニングを実施するという案が挙がりました。しかし最初は、家で母親業と商品製作の忙しさから、トレーニングの時間を別途割くことに反対する母親もいました。そこで、メンバーが増えれば生産数も増え、SPNP 全体の売り上げを向上できること、そして売り上げの向上が、SPNP の持続的な発展に繋がるということ、反対していたメンバーに何度も説明し、理解を得ることができました。その結果、今月4回の編みぐるみのトレーニングを行うことになりました。

トレーニングには、パヤタス在住の母親10名が参加しました。参加者の一人、Bさん（21歳）は、3歳の子供がおり、夫は集めたゴミを売ることで収入を得ているが、その収入は不安定で、一日にかかる生活費250ペソ（約550円）を稼げない時もあるとのことでした。参加者のそれぞれの事情を聞き、皆、母親の自分も家族を支えるために働きたい、という必死の思いから参加しているのだと感じました。トレーニング初日はまず一本線に編むことから教え、最終日は球に編むところまで進みました。参加したPさんは、「もっと練習して、販売できるぐらいの製品を早く作れるようになりたい」と話していました。

インターンを通して、沢山の笑顔に出会いました。一方で彼女たちから、子どもを高校まで卒業させることができるか、病気になった時に病院へ連れて行けるかなどという不安も時折聞け、その度に私は、彼女たちがそうした不安を感じることなく過ごしてほしいという思いを強くしました。インターンは今月で修了しますが、今後も私にできることを追求していきたいです。



ICAN マニラ事務所
小林陽（こばやしみなみ）
～プロフィール～
オーストラリアマードック大学国際援助開発学、地域開発学部卒業。
2016年11月よりインターンとして勤務。

Project Site



認定NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

①路上の子どもたち

6月5日/マニラ(フィリピン)

8名の路上の子どもが復学!



これまでドロップインセンターの子どもたちが復学できるよう、保護者に子どもの教育への理解を促すとともに、子どもたちに勉強を教えてきましたが、今月8名が公立の小学校に復学することができました。アイバン君(11歳)は、「学校に通えていない時も、ここで読み書きの練習をしていたから、授業についていける。宿題が楽しいし、制服を着られて嬉しい。」と話しました。

②紛争の影響を受けた子どもたち

6月5日/イリガン(フィリピン)

ミンダナオの避難民への食糧提供を開始



マラウィで起きた武力衝突により、多くの避難民がいるイリガン市において、食糧提供を開始しました。5日、モネラ学校に避難する75世帯に、1世帯あたり米25kg、缶詰6缶を提供し、「家族と離れ離れになり、今家族がどの避難所にいるか分かりません。でも、こうして私たちを支えてくれる人がいると思うと、少し元気になることができます」(アイサちゃん/10歳)などの声が聞かれました。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

スタディツアー・海外研修事業

6月29日/ケン

日本の高校生17名がフィリピンの高校生と交流

名古屋国際高校の研修5日目、コモンウェルス高校を訪問しました。参加者17名は、最初英語で話すことを躊躇していましたが、身振り手振りで一生懸命話す相手の様子を見て、相手の言っていることを理解しようと何度も聞き返しながら会話できるようになりました。交流後、「僕は英語が全然できないけど、諦めず、伝えたり理解するための方法を探ることが大切だと思った」などの感想がありました。



MYアイキャン育成事業

6月17日/愛知

イエメンの人々を応援する街頭募金第1回目

紛争地イエメンの人々に対する活動に向けた街頭募金を初めて行い、32名のボランティアが集まりました。6月6日・10日に、計20名のボランティアによって作成された看板や募金箱を使い、名古屋・栄の街頭で呼びかけた結果、5万円近くの募金が集まりました。参加者からは、「今後、校内外で活動を積極的に行いたい」などの声がありました。この日の活動では、NHK名古屋の取材もありました。



今月の Topics

NGO 相談員として、3件の出張サービスを実施

2017年度も、外務省より NGO 相談員を受託することとなり、メールや電話、来訪での相談対応に加え、6月は3件の出張サービスを実施しました。

6月9日 国士舘大学：政治行政学科の学生150名に対する講演

6月24日 「ぼらマッチ! なごや」：ボランティアマッチングイベントでの相談対応

6月30日 JICA 中部国際協力推進員会議：NGO 相談員の活用、連携に関する協議

※NGO 相談員は、ボランティア、NGO への就職、国際理解教育、CSR 等様々なご相談に対応しているほか、講演等の出張サービスも無料で行っています。お気軽に問い合わせください。



今月の ICAN 人

◎篠崎さん、派遣前のお忙しい中、ご回答ありがとうございます!

マンスリーパートナー 篠崎愛さん

「現実を前に感じた無力さと、今後の決意」

インタビュー:6月20日

私は、学生時代から国際協力に関心があり、NGOのボランティアにも積極的に参加していましたが、開発途上国へ行った経験がありませんでした。社会人になり、インターネットでアイキャンのスタディツアーの募集を知って、この機会にと思い、長期の休みを頂いてツアーに参加しました。

現地では、今まで本や写真でしか知ることができていなかった貧困の現実を五感で感じ、信じられないほど厳しい生活を強いられている人たちが世界にはいるということを目の当たりにしました。それにも関わらず、パヤマスに住む人々や路上の子どもたちは、日本から来た私たちを喜んで歓迎してくださり、非常に温かい時を過ごすことができました。これは一重にアイキャンと人々との信頼関係の賜物であると感じましたが、同時に、このような状況にいる方々に対して、私は非常に無力であると実感しました。

貧困の現実を目の当たりにしながらも、無力な私にできることは何かを考えたときに、まずは自らのスキルを高める必要があると思い、青年海外協力隊への参加を決意しました。今年の9月から、アフリカのウガンダの農村にて、収入向上支援活動を行う予定です。アイキャンで学んだ、人々の「ために」ではなく人々と「ともに」考え、「ともに」解決策を探していくことを常に意識した活動を行った上で、人々と「ともに」成長していきたいです。

